

#### ■（４２）新聞作りでも必要な「プレゼン力」

岩手県は四国とほぼ同じ大きさで、取材拠点のある盛岡市から被災した三陸沿岸まで約100<sup>km</sup>。記者が朝、被災地に取材にでかけると戻るのは夜遅く。その間に原稿や写真を出すならば、携帯パソコンから主にデータ通信で社内の新聞制作システムに放り込むことになる。私らデスクはパソコンの画面を見ながら、次々とアップされる原稿を確認する。

どの記事や写真を新聞に載せるかの判断で、重要なのはプレゼンテーションの力。内容に「すごいニュース」という強いアピールが込められていればまず「当選」。同程度の記事が並んでいれば、書いた記者がいかにかにニュース性を訴えてくるかが参考になる。そこで選んだ記事を実際の新聞紙面に掲載できるかは、今度はデスクがいかにかに本社にプレゼンできるかにかかっている。口下手でも相手はわかってくれるだろう、は通用しない。新聞記者も黙々と文字と格闘しているだけでは、せつかくの原稿が日の目を見ないことになる。

数十年前の学習発表会。劇の主役をどうしてもやりたいと先生にわがまま言い、主役2人に脚本を書き換えてもらった。当時のアピール力を取り戻したいと思う日々です（山）